

議会活動の意義

……すべての資本主義国に、労働者階級のおくれた分子が存在しているが、彼らは、議会を人民の真の代表者であると確信し、そこで不浄の手段がつかわれていることを知らない。議会は、ブルジョアジーが人民をだますためにつかう道具であると言われている。しかし、この論拠は、君にむけられなければならない。それは、君のテーゼにむけられている。君は、ブルジョアジーにだまされた、ほんとうにおくれた大衆に、どうやって議会の真の性格をあばいて見せるのか？ 議会にはいらず、議会外にいて、どうやって、しかじかの政党のしかじかの議会的な掛引や立場を暴露するのか？ もし君がマルクス主義者であるならば、君は、資本主義社会の諸階級の相互関係や諸政党の相互関係がたがいに緊密に結びついていることを、みとめなければならない。くりかえして言うが、君が議員でないならば、また議会活動を拒否するならば、すべてこうしたことをどうやってしめすのか？ ロシア革命の歴史は、労働者階級、農民、下級職員の広範な大衆が自身の経験によって確信をもつことがなければ、彼らを、どんな論拠によっても説得することはできないということ、をはっきりとしめた。

議会闘争に参加すれば、多くの時間を浪費することになろうと、この席でいわれた。議会と同程度にあらゆる階級が参加しているなにかある機関を、思いうかべることができるであろうか？ それは人為的につくり出すわけにいかない。あらゆる階級が議会闘争に参加させられるのは、階級の利害と衝突が議会に反映しているからである。一度に資本主義を打ちたおすために、かりに、決定的なゼネラル・ストライキを、いたるところで即時組織することが可能であるようなら、そのときには、いろいろの国で革命がもうおこっているであろう。だが、事実を考慮にいれなければならないし、議会は階級闘争の舞台である。同志ボルディガと彼の見地に立っているものは、大衆に真実をかたらなければならない。ドイツは、議会内の共産党議員団が可能であるりっぱな実例である。だから、われわれは、あまりに力が弱いので、組織の強固な党をつくることができないと、諸君は大衆に公然とをかたらなければならないであろう。これが、かたべき真実であろう。だが、こういう自分の弱点を大衆に告白すれば、彼らは諸君の支持者とならずに、諸君の反対者、議会主義の支持者になるであろう。

「労働者の同志諸君、われわれは、力が弱いので、代議士を党に服従させられるほど規律のある党をつくることができない」と諸君が言うならば、労働者は、諸君を見かぎるであろう。なぜなら、彼らは「こんな無力な連中といっしょに、どうしてプロレタリアートの独裁を打ちたてることができよう？」と自分に言ってきたであろうから。

プロレタリアートの勝利の日に、インテリゲンツィア、中間階級、小ブルジョアジーが共産主義的になるとおもったら、諸君ははなはだ素朴である。

諸君にこういう幻想がないならば、諸君はいまでももう、自分の方針を実行するよう、プロレタリアートに準備させなければならない。国家的活動のどの分野にも、この準則の例外はないであろう。革命の翌日には、共産主義者と自称する日和見主義的な弁護士や、共産党の規律をも、プロレタリア国家の規律をもみとめない小ブルジョアを、諸君はいたるところで見つけるであろう。全党員を党の規律に服従させるほんとうに規律のある党を

つくる準備を、諸君が労働者にさせないならば、諸君は、決してプロレタリアートの独裁を準備することにならないであろう。だから、きわめて多くの新しい共産党の弱さこそ、彼らに議会活動を否定させているものだというのを、諸君は、みとめたがらないのであれば、私はおもう。真に革命的な労働者の圧倒的多数は、われわれのあとにしたがい、諸君の反議会主義的テーゼに反対を表明するであろうと、私は確信している。

第 31 卷『共産主義インタナショナル第二回大会』P248～250

1920 年 7 月 19 日～8 月 7 日

ポイント

議会は、ブルジョアジーが人民をだますためにつかう道具であると言われている。しかし、この論拠は、君にむけられなければならない。だから君たちは、それを暴露しなければならない。

規律のある党が、資本主義社会の諸階級の相互関係や諸政党の相互関係がたがいに緊密に結びついていることを、しかじかの政党のしかじかの議会的な掛引や立場を暴露して、議会はブルジョアジーが人民をだますためにつかう道具であることを大衆自身の経験によって確信をもつようにしなければならない。議会に入っている人はこのことを心がけなければならない。ここから先は、よく考えて下さい。